2017年12月23日（土）　インド大使館　ウパニシャッド（第20回）

前回はカタ・ウパニシャッドの第８節までを説明しました。ウパニシャッドに参加されるときは、「カタ・ウパニシャッド カタカナ読み表示と日本語解説」（以下、「日本語解説テキスト」と略称）をいつもご持参ください。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第８節（復習）≫**

*āśāpratīkṣe saṁgataṁ sūnṛtāṁ ceṣṭāpūrte putrapaśūṁśca sarvān；*

*アーシャープラティークシェー　サㇺガタㇺ　スーンリターㇺ　チェーシュタープールテー　プットラパッシューㇺシュチャ　サルヴァーン；*

*etadvṛṅkte puruṣasyālpamedhaso yasyānaśnanvasati brāhmaṇo gṛhe.*

*エータッヴリンクテー　プルシャッスャーアルパメーダソー　ヤッスヤーナッシュナンヴァサティ　ブラーンマノー　グリへー*

［日本語解説テキストのサンスクリット語のカタカナ表記をマハーラージと皆が一緒に声を合わせて読む］

*訪問客ブラーミンに対し、食事のもてなしを何もしないと、その家の主人の希望も期待も粉々に砕け散る。良い交わり、良い会話、犠牲供養、寄付や井戸を掘るなどの奉仕から得た果報も、その家の家畜も子供たちも、すべて失われる。*

［日本語解説テキストの訳を皆が一緒に声を合わせて読む］

この第８節までの経緯を思い出してください。ナチケータはヤマのところに来ましたがヤマは３日間留守にしていました。その３日間ナチケータは何も食べず、何も飲まず、寝ないでヤマを待っていました。そして第８節に入ります。

ヤマの親戚がヤマに言っています、「ヤマ、あなたはすぐに行ってお客様を喜ばせてください。そのゲスト（お客様）は普通ではない特別なお客様です。そのお客様を喜ばせないとあなたのすべてのもの、富や親戚は全部なくなります」と。お客様はみな喜ばせないといけませんがナチケータは特別なお客様です。どうしてでしょうか。

ナチケータはブラーフマナだからです。それで特別です。前にも話しましたが、カーストの関係で、お父さんがブラーフマナ・カーストであるならば息子もブラーフマナ・カーストです。しかし、深い意味でどなたがブラーフマナでしょうか。ブラーフマナの基準は何ですか。

心のコントロール、感覚のコントロール、身体のコントロールをし、たくさんの霊的な実践をし、いつもブラフマンのことを考えて自分がいつもブラフマンと繋がっている状態にある人がブラーフマナです。

ナチケータはその種類のブラーフマナです。まだ悟った人ではないですけれど（霊的に）進んでいます。もし悟っているならばヤマの教えは要りません。しかし、ナチケータはブラフマンのことをいつも思い出しています。聖典をたくさん勉強して真理のことを考えていつもブラフマンと繋がっている状態です。

その種類のブラーフマナが家住者の家に行きますと、例えば、火が現れています。火はすべてのものを燃やします。同じようにブラーフマナが怒りますと、ブラーフマナの怒りの結果で家住者のすべてのものはなくなります。

アーシャープラティークシェー（āśāpratīkṣe）は、もらったことがない種類のものともらったことがある種類のものに対する願い（希望と期待）です。例えば、天国にはまだ行ったことがないですが天国に行きたい。その種類の願いが希望です。

他の人のお世話のためにいろいろな仕事をたくさんします。例えば、巡礼者の便宜のために、巡礼に行く道を造り、無料で食事を提供し、巡礼者の喉の渇きを潤し沐浴のために水を用意します。そのように良いカルマをしますとそのカルマの結果が出ますね。良いカルマの結果で善を積みますと天国に行きます。

ヤマの親戚のヤマへの助言は、「あなたはブラーフマナであるナチケータを喜ばせるためにすぐに行ってください」です。それで次は第９節です。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第９節≫**

*tisro rātrīryada vātsīrgṛhe me’naśnan brahmannatithirnamasyaḥ；*

*ティスロー　ラートリーリャダ　ヴァートシールグリエ　メーナシュナン　ブラフマンナティティルナマスャㇵ；*

*namaste’stu brahman svasti me’stu tasmāt prati trīn varān vṛṇīṣva.*

*ナマステーストゥ　ブラフマン　スヴァスティ　メーストゥ　タスマーㇳ　プラティ　トゥリーン　ヴァラーン　ヴリニーシュヴァ*

［日本語解説テキストのサンスクリット語のカタカナ表記を最初にマハーラージが少しずつ唱えて皆がそれに続き唱え、最後にマハーラージと皆が一緒に唱える］

節の語を分けます（節の中で２語が一緒になって１語になっている部分などがあるため）。rātrīryada vātsīrgṛheは、rātrīḥ yat avātsīḥ gṛhe（ラートリㇶ　ヤット　アヴァートシㇶ　グリヘ）の４語になります。me’naśnan brahmannatithirnamasyaḥは、me anaśnan brahman atithiḥ namasyaḥ（メー　アナシュナン　ブラフマン　アティティㇶ　ナマスャㇵ）になります。

namaste’stu brahman svasti me’stu tasmāt prati trīn varān vṛṇīṣvaは、namaste astu brahman svasti me astu tasmāt prati trīn varān vṛṇīṣva（ナマステ　アストゥ　ブラフマン　スヴァスティ　メー　アストゥ　タスマーㇳ　プラティ　トゥリーン　ヴァラーン　ヴリニーシュヴァ）になります。（＊語分けに関しては、日本ヴェーダーンタ協会のテキストギャラリー/ウパニシャッド/からダウンロードできる「カタ・ウパニシャッド サンスクリット語と英語の解説　第1部1章全節」もご参照ください。以下同様です。）

言葉の意味を説明します（上記のように語を分けるとともに語の順序を変えて意味を取ります；ウパニシャッド講話-18参照）。最初は、「おおブラーフマナのお客様」です。ブラーフマナとはナチケータのことです。前回説明しましたが、アティティとは、ティティ（月のポジションで良い日、特別な日、神聖な日）を考えずに突然来るお客様のことです。

次は「そのお客様は尊敬される方」です。ナマスャㇵは皆さんから尊敬される人という意味です。それから「家に」（グリヘ）、「３晩」（ティスラㇵ　ラートリㇶ）、「泊っていました」（アヴァートシㇶ）です。

次は「そして」（タスマーㇳ）、「おおブラーフマナ（ナチケータのこと）、あなたに」（ブラフマン　テー）、「私は敬礼します」（ナマㇵ　アストゥ）、「私に危険がありませんように、幸福（well-being）の状態が出ますようにお願いします」（メー　スヴァスティー）です。

それから「（３日間の）毎日に対して」（プラティ）、「あなたは（一日につき一つの願いで合わせて）３つの願いをしてください」（トゥリーン　ヴァラーン　ヴリニーシュヴァ）です。「３つの願いをしてください」の意味は、「私（ヤマ）はそれをかなえます」です。

全体で、「おおブラーミン（ブラーフマナ）、あなたは私のお客様です。あなたはブラーミンです。私はあなたに敬礼します。あなたの恩寵で私は幸福の状態になりますように。あなたは３日間私の場所に泊まりましたから一日につき一つの願いを私に言ってください、頼んでください。私はその３つの願いをかなえます。」という意味になります。

ヤマはナチケータの願いをかなえると言っています。しかし、普通の人には願いをかなえる力はないです。かなえることはできないです。しかし、ヤマは死神という神様でしたから、ヤマにはかなえる力がありました。ヤマは、ナチケータがヤマの場所に何も食べず何も飲まずに３日間滞在したことに対して償い（compensatory）をしたかったのです。

なぜなら、お客様を喜ばせないで、もしお客様が怒りますとすべてのものがなくなりますから。ヤマは神ですけれども心配があります。怖いです。神でも怖いです。なぜなら、そのお客様は特別な人、ブラーミン（ブラーフマナ）でしたから。そして、ナチケータの最初の願いが次の第１０節にあります。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第１０節≫**

*śāntasaṁkalpaḥ sumanā yathā syādvītamanyurgautamo mā’bhi mṛtyo；*

*シャーンタサㇺカルパㇵ　スマナー　ヤター　スャードヴィータマンニュルガウタモー　マービ　ムリッティヨー；*

*tvatprasṛṣṭaṁ mā’bhivadetpratīta etat trayāṇāṁ prathamaṁ varaṁ vṛṇe.*

*トヴァッㇳプラスリィシュタㇺ　マービィヴァデーㇳプラティータ　エータッㇳ　トゥラヤーナーㇺ　プラタマーㇺ　ヴァラㇺ　ヴリネー*

［日本語解説テキストのサンスクリット語のカタカナ表記を最初にマハーラージが少しずつ唱えて皆がそれに続き唱え、最後にマハーラージと皆が一緒に唱える］

語を分けます。śāntasaṁkalpaḥ sumanā yathā syādvītamanyurgautamo mā’bhi mṛtyoは、śāntasaṁkalpaḥ sumanā yathā syāt vītamanyuḥ gautamo mā abhi mṛtyo（シャーンタサㇺカルパㇵ　スマナー　ヤター　スャートゥ　ヴィータマンユㇷ　ガウタモ　マー　アビ　ムリッティヨー）になります。

次のtvatprasṛṣṭaṁ mā’bhivadetpratīta etat trayāṇāṁ prathamaṁ varaṁ vṛṇeは、tvat prasṛṣṭaṁ mā abhi vadet pratīta etat trayāṇāṁ prathamaṁ varaṁ vṛṇe（トヴァッㇳ　プラスリィシュタㇺ　マー　アビヴァデーㇳ　プラティータ　エータッㇳ　トゥラヤーナーㇺ　プラタマーㇺ　ヴァラㇺ　ヴリネー）になります。

この第１０節は、ヤマの言葉「何がほしいか、願いを言ってください」に対するナチケータの答えであり、ナチケータの３つの願いのうちの最初の願いです。

意味を説明しますと、ムリッティヨーは「おお死神」、シャーンタサㇺカルパㇵは「すべての心配はなくなる」、スマナーㇵは「喜びの状態、楽しみの状態、穏やかな状態になる」、ヴィータマンユㇷは「怒りがなくなる」です。

マー　アビ　ムリッティヨーは「おお死神、私に」、トヴァッㇳ　プラスリィシュタㇺは「あなたは送ったら」、マー　アビヴァデーㇳ　プラティータは「私を理解することができます」、エータッㇳは「これ」、トゥラヤーナーㇺは「３つの」、プラタマーㇺは「一番最初の」、ヴァラㇺは「願い」、ヴリネーは「お願い」です。

全体で、「おお死神よ、私のお父さんゴータマの（ナチケータのお父さんの名前がゴータマ）すべての心配がなくなり、またいつもの穏やかな状態に戻り（シャーンタサㇺカルパㇵ）、私への（マー　アビ）怒りがなくなり（ヴィータマンユㇷ）、あなたが私を送り戻したら（トヴァッㇳ　プラスリィシュタㇺ）私をすぐに（自分の息子だと）理解することができます（ヤター　スャートゥ　プラティータㇵ）ように。それが最初の願いです」となります。

プラティータㇵは「わかる（recognize）」という意味です。例えば、あなたが友達にしばらくぶりで会ったときにあなたがその人（友達）だとわかるという意味です。ナチケータは死神の場所に行きましたからナチケータは死んでいるということですが、死んだ後もしその人が戻りますと普通は皆さん怖がらないですか。本当はその人ではない、それは幽霊ではないかと考えますね。

それでナチケータは言いました、「もし私が（家に）戻ったときに、お父さんはすぐに（私だということが）わかりますように」と。幽霊ではない、本当の人間であり、それだけでなく、それは自分の息子だとわかるようにと願いました。その前後関係でプラティータㇵの意味は「わかる」です。

それからトヴァッㇳ　プラスリィシュタㇺは「あなた（ヤマ）は私を（私の家に）送る」です。普通の人はヤマ（死神）の場所に行くと戻らないですね。しかし、ナチケータはとても特別な状況でヤマのところに来ましたから、ヤマとの話が終わったらナチケータは自分の家に戻りたいです。

ナチケータは自分で戻ることはできないですから、ヤマに、「あなたは私を私の家に送り戻してください」と願いました。普通は死神の場所に行きますと戻らないですね。しかし、ナチケータは死んでないです。ナチケータは自分のお父さんの言うこと（命令）に従うために死神の場所に来ました。カルマの法則で亡くなったわけではないです。

普通の人と何が違いますか。普通の人は、カルマの法則に則り自分のカルマで死神の場所に行きます。しかし、ナチケータはその状況ではなかったです。そしてナチケータは「あなたは私を送り戻します。自分で戻ることができなくてもあなたの恩寵でできます」と希望しました。それがトヴァッㇳ　プラスリィシュタㇺの意味です。

それから、マー　アビヴァデーㇳは「お父さんが前と同じように私と話します」です。どうして前と同じようにと願いましたか。なぜなら、お父さんは怒っていましたから。それだけでなく、もし戻りますと私を幽霊と思うなどのいろいろな原因で普通に話ができない可能性がありますから。それで、前と同じようにお父さんが私と話してほしい、と願いました。

それが３つの願い（エータッㇳ　トゥラヤーナーㇺ）の最初の願い（プラタマーㇺ　ヴァラㇺ）です。ヤマ、あなたはかなえてください。

ここで面白いのは、ナチケータの最初の願いはとても人間的な感情（feeling）であるということです。霊的な人の感情には、普通の人間の感情（人間的な感情）がないという誤解がときどきあります。

なぜなら、霊的な人は放棄を実践していますから普通の感情がなくなると考えられることがあるからです。しかし、それは間違った考えです。霊的な人の目的は何でしょうか。それは、バクティー・ヨーガの考えで「すべての人の中に神様を見る」、ギャーナ・ヨーガの考えで「すべての人の中に自分の魂を見る、自分の魂の中にすべての魂を見る」です。

そうしますと感情はなくならないですね、絶対に。それだけではなく、神聖な人の中に本当はもっと感情がある可能性があります。普通の家住者と神聖な人のフィーリング（感情）とは何が違いますか。

普通の世俗的な人の愛の中心はいつも自分の家族だけです。とても愛しますけれども、愛するのは自分の奥さん、旦那さん、息子、娘、親戚、友達だけではないですか。しかし、神聖な人の考えは違います。バガヴァッド・ギーターの中にそのことが書いてあります。

先ほど言いましたように、神聖な人は、自分の魂の中にすべての魂を見、すべての魂の中に自分の魂を見ます（バガヴァッド・ギーター第６章第２９節参照）。ウパニシャッドの中にもそのことがあります。

どうして奥さんは旦那さんを愛していますか。どうして旦那さんは奥さんを愛していますか。どうして両親は息子、娘を愛していますか。なぜなら、奥さんは自分の魂を旦那さんの中に見ていますから、旦那さんは自分の魂を奥さんの中に見ていますから、愛しています。それが愛することの本当の原因です。

しかし、普通の考えはそうではなく、結婚しましたから、自分の息子・娘ですから、血の関係がありますから、愛しています、です。

真理の見方はそうではなく、自分の魂を、例えば、家族の中に見ていますから愛しています。ですが、無知の影響で、マーヤーの影響で普通の人の愛の限度は自分の家族だけです。しかし、神聖な人にはその限度はないです。愛の限度はないです。愛はすべての人、家族でない関係ない人にも及びます。

さて、もしお父さんが怒って息子に「家から出てください」と言いますと、その息子もお父さんに怒りたくなりませんか。しかし、ナチケータはその種類の人ではない。なぜなら、お父さんは怒って私にそのことを言いましたけれど、お父さんは私を愛していることがわかっていましたのでナチケータに怒りはありませんでしたから。

ナチケータはお父さんが初め怒りましたが後で悲しんでいることが想像してわかりました。それで、ヤマに、「あなたの恩寵で、お父さんがまた穏やかな状態に戻りますように。その状態を作ってください。そして、あなたが私を私の家に送り戻すと、お父さんは私を見て自分の息子は戻りましたとすぐにわかり、それから普通の感じで続きますように」、と願いました。これがナチケータの最初の願いでした。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第１１節≫**

*yathā purastād bhavitā pratīta auddālakirāruṇirmatprasṛṣṭaḥ；*

*ヤター　プラスタード　バヴィター　プラティータ　アウッダーラキルアールニルマㇳプラスリシュタㇵ；*

*sukhaṁ rātrīḥ śayitā vītamanyustvāṁ dadṛśivānmṛtyumukhāt pramuktam.*

*スッカㇺ　ラートリー　シャイター　ヴィータマンニュスㇳヴァーㇺ　ダァドリッシバーンムリトュムカーㇳ　プラムクタム*

［日本語解説テキストのサンスクリット語のカタカナ表記を最初にマハーラージが少しずつ唱えて皆がそれに続き唱え、最後にマハーラージと皆が一緒に唱える］

語を分けます。yathā purastād bhavitā pratīta auddālakirāruṇirmatprasṛṣṭaḥは、yathā purastād bhavitā pratīta auddālakiḥ āruṇiḥ mat prasṛṣṭaḥ（ヤター　プラスタード　バヴィター　プラティータ　アウッダーラキㇶ　アールニㇶ　マㇳ　プラスリシュタㇵ）です。

sukhaṁ rātrīḥ śayitā vītamanyustvāṁ dadṛśivānmṛtyumukhāt pramuktamは、sukhaṁ rātrīḥ śayitā vītamanyuḥ tvāṁ dadṛśivān mṛtyumukhāt pramuktam（スッカㇺ　ラートリㇶ　シャイター　ヴィータマンニュㇷ　トヴァーㇺ　ダァドリッシバーン　ムリトュムカーㇳ　プラムクタム）です。

ナチケータのお父さんの名前がアウッダーラキで、そのアウッダーラキはアルーナの息子です。プラスタードは「前と同じように」（死神の場所へ行く前の状態と同じように）です。ヤター　プラティータㇵは、「あなた（ナチケータ）をとても愛していたのと同じ状態に戻る」です。ヤマの場所に行く前にお父さんは怒りましたが、その前のあなたを愛していた状態にまた戻るということです。

マㇳ　プラスリシュタㇵは「私（ヤマ）の命令であなたは自分の家に戻ります」です。ムリトュムカーㇳ　プラムクタムは「私からあなたは解放されます」です。ヤマから解放されてナチケータは自分の家に戻るということです。

トヴァーㇺ　ダァドリッシバーンは「戻ったあなたを見て」、ヴィータマンニュㇷは「お父さんの怒りはなくなります」です。バヴィター　スッカㇺ　ラートリㇶ　シャイターは「（お父さんは）また夜よく眠るようになる」です。

全体で、「アルーナの息子である、あなたのお父さんのアウッダーラキは前と同じようにまたあなたを愛します。あなたは私の命令で自分の家に戻ります。お父さんの怒りはなくなっています。あなたが家に戻る前にお父さんは（すべての心配がなくなり幸福の状態が出て）夜よく眠るようになります。そしてあなたが自分の家に戻ったときお父さんはあなたを見て前と同じようにあなたを愛します」です。

**≪カタ・ウパニシャッドPart 1 – Chapter 1 第１２節≫**

*svarge loke na bhayaṁ kiṁcanāsti na tatra tvaṁ na jarayā bibheti；*

*スヴァルゲー　ローケー　ナ　バヤㇺ　キㇺチャナースティ　ナ　タットラ　ㇳヴァㇺ　ナ　ジャラヤー　ビベーティ；*

*ubhe tīrtvā’śanāyāpipāse śokātigo modate svargaloke.*

*ウベー　ティールトゥヴァーシャナーヤーピパーセー　ショーカーティゴー　モーダテー　スヴァルガローケー*

［日本語解説テキストのサンスクリット語のカタカナ表記を最初にマハーラージが少しずつ唱えて皆がそれに続き唱え、最後にマハーラージと皆が一緒に唱える］

語を分けますと、svarge loke na bhayaṁ kiṁcanāsti na tatra tvaṁ na jarayā bibhetiは、svarge loke na bhayaṁ kiṁcana asti na tatra tvaṁ na jarayā bibheti（スヴァルゲー　ローケー　ナ　バヤㇺ　キㇺチャナ　アスティ　ナ　タットラ　ㇳヴァㇺ　ナ　ジャラヤー　ビベーティ）になります。

ubhe tīrtvā’śanāyāpipāse śokātigo modate svargalokeは、ubhe tīrtvā aśanāyā pipāse śokātigo modate svargaloke（ウベー　ティールトゥヴァー　アシャナーヤー　ピパーセー　ショーカーティゴー　モーダテー　スヴァルガローケー）になります。

３つの願いのうち最初の願いは終わりました。その願いをかなえると死神は言いました。今から第２の願いが始まります。第２の願いは天国に関係することです。

スヴァルゲー　ローケーは「天国に」です。キㇺチャナ　バヤㇺ　ナ　アスティは「恐れのことが何もない」です。この世界と天国を比べて「恐れ」の話が出ています。この世界には心配のこと、怖いことがたくさんありますね。ナチケータは、天国に恐れのないことを聖典の中で勉強していましたし聞いたこともありますので、「天国には恐れのことが何もない」と言っています。

ㇳヴァㇺは「あなた（死神）は」で、ナ　タットラ　ㇳヴァㇺ　ナㇵは「天国にいない」ですから、「死神は天国にいない」と言っています。「死神はいない」の意味は「死にません」です。「死神がいる」の意味は「死ぬ可能性がある」です。人はこの世界では死にます。この世界には死神がいるからです。しかし、天国に死神はいません。それは、天国に行きますと死なないことを意味しています。

ウベーは「両方」です。ウベー　アシャナーヤー　ピパーセー　ティールトゥヴァーは、「向う（天国）ではお腹も空きませんし喉も渇きません」です。我々はお腹が空いていますし、喉も渇いていますから、食べ物・飲み物が必要です。食べ物・飲み物が必要ですからお金を稼がないといけないです。なぜなら普通はもらうことはできないですね。手に入れるにはお金がかかります。

では、全然お腹が空かないし喉も渇かない状態を想像してください。そこで何人の人が仕事をしますか。お腹も空いていないしのども渇いていないので、食べ物も飲み物もいらないとすれば、何人の人が一所懸命仕事をするでしょうか。

仕事は楽しみですか。仕事は楽しみではないです。仕事には大変なことがたくさんありませんか。大変なことをやろうとする人は何人いるでしょうか。

我々は生きるためには食べ物・飲み物が絶対に必要です。食べないと生きることができないです。では、また想像してください。特別なビタミン錠があってそれを食べると全然お腹が空きません。ですから、そのビタミン錠だけを食べていればお腹が空くことはありません。しかし、そのビタミン錠を買うためにもお金がかかりませんか。

もう少し想像してください。もし或る国に入りますとお腹も空きませんし、喉も渇きません。そのとき皆さんは仕事をしますか、しませんか。私の質問です（笑い）。その国で仕事をしないでしょう。仕事をしようとする一番のやる気は食べ物、飲み物のためでしょう。服もありますが。さて、もしその国を想像することができたら、天国はその場所です。

それから、ショーカーティゴーは「悲しみのことが何もない」、「苦しみも悲しみもない」です。モーダテーは「いつも楽しみの状態」です。

**＜天国のイメージ＞**

我々は天国の経験がないですから想像しないといけないです。そこでは恐れのことが何もなく、心配のことが何もなく、食べ物も飲み物もいらず、死神も存在せず、苦しみも悲しみもなく、楽しみだけがあります。ナチケータは天国についてそのイメージを持っています。

我々の天国についての普通のイメージはそれだけです。すべての宗教でだいたい同じイメージです。天国には楽しみがたくさんあり、苦しみは絶対にないというイメージです。では、楽しみのイメージは何ですか。例えば、音楽、踊りなどがあります。

天国には「アムリタ」（「甘露」と訳されます）があるとされます。アムリタは特別な飲み物で、それを飲むと少し酔っ払った状態も出ます。しかし、天国では「お腹も空かないし喉も渇かない」のにアムリタを飲む気が起こるでしょうか。少し矛盾のようにも感じますが、アムリタは楽しみの一つの形を表しており、天国には楽しみがたくさんあることを言っていると考えればよいでしょう。

楽しみのイメージはさまざまです。例えば、アラビアでは水があまりありませんね。その地域の人の天国のイメージは、「天国には水がたくさんある」です。それから狩猟が好きな民族の天国のイメージは「毎日狩りができる」です。毎日動物の狩りをして夕方にその獲物の肉を料理して食べるのがその人たちの一番の楽しみの想像であり天国のイメージです。狩った動物が次の日にまた生きかえり朝から夕方までハンティング（いわば、ゲーム）を楽しめる。その人たちの天国のイメージはそれです。

ヒンドゥー教もキリスト教もイスラム教も仏教も天国のイメージはだいたい同じです。楽しみがたくさんあって苦しみは全然ないというイメージです。他に何がありますか。

「病気はない」です。楽しみのものがたくさんあっても病気がありますと、本当は楽しむことができないです。例えば、食事を考えてください。もしお腹の状態が悪くて消化不良を起こしていれば、たくさんの食べ物・飲み物があっても食べることも飲むこともできないです。

天国に病気はありません。もう一つ、天国では齢を取りません。人間の普通の状態は、生まれ（Jāyate（ジャーヤテ））、存在が始まり（Asti（アスティ））、育ち（Vardhate（バルダテ））、変化し（Viparinamate（ヴィパリナマテ））、衰え（Apakshīyate（アパクシーヤテ））、亡くなります（Nasyati（ナッシャティ））。齢を取りますと皮膚も変化しますし髪も白くなり落ちます。これが普通の人間の状態であることを理解した上で天国の状態と比べます。

天国に行きますと神になります。そのとき３つの状態（Tridasha（トリダシャ））だけです。tri（トリ）が３つ、dasha（ダシャ）が状態で、３つの状態を持っている人はトリダシャであり、神は皆トリダシャです。

その３つの状態とは、入り（ジャーヤテ）、存在し（アスティ）、亡くなる（ナッシャティ）、の３つです。天国に行き（入り）、天国にずっといて（存在し）、亡くなります。ですから、バルダテも、ヴィパリナマテも、アパクシーヤテもありません。ジャーヤテと、アスティと、ナッシャティの３つだけです。

天国へ行きますとそのとき若い状態に入ります。なぜなら育つこと（バルダテ）はないからです。亡くなる（ナッシャティ）の意味は、天国から離れて、カルマの法則によってまた人間の形で生まれ、輪廻が続いていくということです。

天国にいる時間はどれくらいでしょうか。人間は、長い短いはありますがだいたい１００年くらい生きます。それと比べて天国にいる時間はずっと長いです。どれくらい長いかをはっきり言うことはできないですけれどもとても長いです。例えば、１０００年、５０００年というイメージでしょうか。

**＜天国のレベル＞**

ヒンドゥー教の聖典の考えによれば、天国の中にもいろいろレベルがあります。これが面白いです。私が今まで勉強した宗教の中で、天国のレベルのことが書かれているものはないです。或る天国の楽しみとその上の天国の楽しみとでは例えば、楽しみの量が違います。或る聖典の考えによれば、７つの天国があります（下図の左列）。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| Satyaloka | Brahmāloka | Hiranyagarbhaloka |
| ↑ | ↑ |  |
| Tapasloka | Pitriloka |  |
| ↑ | ↑ |  |
| Janaloka | Somaloka |  |
| ↑ | ↑ |  |
| Mahahloka | Gandharaloka |  |
| ↑ | 　 |  |
| Svahloka | 　 |  |
| ↑ | 　 |  |
| Bhuvahloka | 　 |  |
| ↑ | 　 |  |
| Bhuhloka | 　 |  |

一番上はSatyaloka（サッティアロカ）で、loka（ロカ）は「場所」です。順に、Tapasloka（タパスロカ）、Janaloka（ジャナロカ）、Mahahloka（マハーロカ）、Svahloka（スヴァーロカ）、Bhuvahloka（ブヴァロカ）と続き、一番下はBhuhloka（ブーロカ）です。

これがヒンドゥー教の聖典の普通のイメージですが別の意見もあり、それによれば、一番上がBrahmāloka（ブラフマーロカ）、それから順にPitriloka（ピートリロカ）、Somaloka（ソマロカ）、Gandharaloka（ガンダーラロカ）です。もう一つ別に、Hiranyagarbhaloka（ヒラニヤガルバロカ）というイメージがあります。

Satyaloka（サッティアロカ）とBrahmāloka（ブラフマーロカ）とHiranyagarbhaloka（ヒラニヤガルバロカ）は同じイメージです。この３つは言葉は違いますけれど同じ天国のことを言っています。

では、或る天国と別の天国で何が違いますか。それに関してタイッティリーヤ・ウパニシャッドの中に説明があります。

若くて、身体も心も健康で、力強く、頭もとても良く、とても活発な人、そのような人は世界のすべての富を持っています。世界のすべての楽しみのものを持っています。世界の一番のお金持ちであってもその富には限度があり楽しみのものに限度があります。もちろん、他の人と比べれば富も楽しみのものもたくさんありますが限度があります。

しかし、想像してください。世界のすべての楽しみのものを持っている人はどれくらい楽しんでいますか。楽しみの量を考えてください。我々は、身体が強いと喜びますし、心がとてもコントロールできていると喜びますし、頭がとても良いとそれも喜びますね。例えば、たくさん仕事ができ、力もたくさんあり、お金もあり、楽しみのものがたくさんありますと我々は皆喜んでいませんか。もちろん喜んでいます。

しかし、世界のすべての楽しみのものを持っている人の喜びはどれくらいでしょうか。その人の喜びは無限のようです。そのイメージはわかりますね。その人の喜びは無限みたいです。その喜びの量が一番小さい単位です。

世界のすべての楽しみのものを持っている人の喜びの１００倍が一番下の天国の喜びです（笑い）。その天国がManushya Gandharva（マヌッシャヤ・ガンダルヴァ）です。

ブラフマンの至福

　　　　↑

Brahmā（ブラフマー）

　　↑

Vrihaspati（ヴリハスパティ）

　　↑

Indra（インドラ）

　　↑

Karmadeva（カルマデーヴァ）

　　↑

Ajānajadeva（アジャーナジャデーヴァ）

　　↑

Pitri（ピートリ）

　　↑

Deva Gandharva（デーヴァ・ガンダルヴァ）

　　↑

Manushya Gandharva（マヌッシャヤ・ガンダルヴァ）

そのマヌッシャヤ・ガンダルヴァの天国の楽しみの１００倍がDeva Gandharva（デーヴァ・ガンダルヴァ）の天国の楽しみであり、デーヴァ・ガンダルヴァの天国の楽しみの１００倍がPitri（ピートリ）の天国の楽しみであり、ピートリの天国の楽しみの１００倍がAjānajadeva（アジャーナジャデーヴァ）の天国の楽しみであり、アジャーナジャデーヴァの天国の楽しみの１００倍がKarmadeva（カルマデーヴァ）の天国の楽しみであり、カルマデーヴァの天国の楽しみの１００倍がIndra（インドラ）の天国の楽しみであり、インドラの天国の楽しみの１００倍がVrihaspati（ヴリハスパティ）の天国の楽しみであり、ヴリハスパティの天国の楽しみの１００倍がBrahmā（ブラフマー）の天国の楽しみです。

ブラフマーロカ（ブラフマーの天国）はサッティアロカと同じことです。聖典の中にこのような天国のアイデアが入っています。

しかし、面白いはそのブラフマーロカ（ブラフマーの天国）の１００倍の楽しみが「ブラフマンの至福」だということです。ブラフマーとブラフマンとの違いはわかりますね。ブラフマンは絶対の真理です。ブラフマーは創造の神様です。そのブラフマーの天国（ブラフマーロカ）であっても一番の至福ではないのです。

別のこと考えてください。人間の大きな目的の一つは楽しみではないですか。楽しみのために皆さん生きていますね。皆さん楽しみの経験がほしいです。「ブラフマンの至福」は一番の楽しみです。そのことを理解しますとブラフマンを悟りたいというやる気が出ます。

普通の世界の楽しみより天国の楽しみはずっとずっと大きいです。そして今説明したように、１００倍、さらに１００倍と天国が上がるほど楽しみが大きくなっていきます。しかし、一番の至福はどのようにすれば得られますか。それは、ブラフマンを悟りますと一番の至福を得ることができます。

普通の人もそのことを理解しますと、悟りのためにその実践のためにやる気が出ます。そのやる気を出させる目的で聖典の中に天国の詳細が入っています。

**＜天国の存在の証明＞**

それでは基本的な質問ですが、天国はありますか、ありませんか。何がその証明になるのでしょうか。証明の一つは「聖典」です。もし我々が聖典の言っていることを信じますと天国はあります。天国があることを信じます。

もう一つは、「聖者たち」が瞑想して理解して天国はある、と言っています。もう一つあります。それは「天使」が人間の前に現れて天国はあると教えています。その話もあります。このように、天国があるかないかの証明は、一つが聖典であり、一つが聖者たちの理解であり、一つが天使の教えです。別の方法での証明はないです。

ホーリー・マザー（シュリー・サーラダー・デーヴィー）の逸話があります。ホーリー・マザーに或る信者は尋ねました、「マザー、聖典の中にいろいろ天国があると書かれていますが本当にありますか」、と。とても大事な質問です。

ホーリー・マザーの答えは、「無知がある間は、世界もあり、天国もあります。無知がなくなると、世界もなく、天国もありません」です。とてもとても面白い答えです。二元論的なレベルにいる間は、全部あります。地獄も、天国も、世界も全部あります。もし非二元論的な状態に入りますと、何もないです。サマーディに入りますと世界もなくなります。

しかし、我々はまだ悟っていません。サマーディに入っていません。では、どのようにすれば、そのことを理解できるでしょうか。自分の経験で考えてください。睡眠には、夢を見ている状態と、夢も見ない深い睡眠のときがあります。深い睡眠に入りますと全部なくなりませんか。

そのとき、世界の意識、自分の名前、自分の存在、自分の友達、親戚、家、仕事の全部がなくなりませんか。その経験は皆さんにあるはずです。しかし、その状態には無知の影響で入っています。サマーディでは無知がなくなって意識を持って入ります。それが違います。

深い睡眠に入るのに自分ではコントロールできないです。自然のままに入ります。これも一つはマーヤーの状態、無知の状態です。サマーディは知識の状態です。意識を持って入ります。深い睡眠は無意識の状態で入っています。それが大きな違いです。

しかし、考えによれば、深い睡眠とサマーディとは結果として同じような経験です。すなわち、全部なくなります、世界がなくなります。ところが、深い睡眠のとき世界はなくなりますけれども、眠りから覚めますとまた世界は戻ります。なぜなら、無知の影響で入りましたから。或るときだけ無知はないようですが、また無知は戻ります。

しかし、意識を持ってサマーディに入りますと、無知はそのときなくなっています。無知がなくなりますと世界は戻りません。そのとき世界を見ても世界は実在ではないと、いつもその意識を持っています。世界は影のようです。

このように、深い睡眠のとき世界はなくなりますけれども、起きるとまた非実在を実在と考えています。しかし、サマーディから戻った後は非実在と実在がはっきりわかります。この世界を見てもそれは実在ではない影のようだとわかります。そしてその意識が続きます。

先ほど、天国がありますか、ありませんかとお聞きしましたが、その答えの前に世界がありますか、ありませんかを答えてください。世界がありますと天国も地獄もあります。もし、想像だけでなく本当にサマーディに入りますと、世界はなくなります。戻っても世界は実在ではなく非実在であり影のようです。そしてそれが続きます。その状態に入りますと天国も地獄もありません。

もう一つ別のことを考えてみましょう。我々は個別のアートマン、ジヴァ・アートマンです。ジヴァ・アートマンは、身体意識、心意識を持っている魂です（ウパニシャッド講話-9参照）。その状態にある間は、天国もあります、地獄もあります。なぜでしょうか。

私が身体・心意識を持っていますと、私はこの身体・心で仕事をしており、良い仕事も悪い仕事も両方とも私の責任と考えます。それは同一視の状態です。自分（私）を身体・心と同一視しますと、その身体・心で行ったこととも全部同一視します。そうしますと地獄もあり天国もあります。それが理由です。

自分の身体・心と同一視するのは無知の状態です。無知の状態では、自分の身体・心でした仕事とも同一視しています。そして仕事の結果とも同一視しています。そのように同一視していますとその身体と心でした仕事の結果で地獄にも天国にも行きます。

もし、私が身体・心と同一視しないで魂だけになりますと、その私のカルマはなくなります。身体・心と同一視せずにそれから離れますと、身体と心でした仕事からも離れます。同一視せずに切り離しますとすべてのカルマは燃やされます。カルマが燃やされますと地獄にも天国にも行きません。燃やされていないと天国にも地獄にも行きます。

ホーリー・マザーの答えはとても素晴らしいものです。無知がある間、世界もあります、地獄もあります、天国もあります。無知がなくなりますと、悟りますと、絶対の知識が出ますと、世界も、地獄も、天国もありません。

これはとてもとても面白くて深い理解です。天国があるかないかに対する素晴らしい答えです。無知がある間は、絶対に天国に行かないといけない、地獄に行かないといけないです。良い結果で天国、悪い結果で地獄。それでまた生まれないといけない。その感じで続きます。

悟った人は自分の身体・心と同一視しないですから、その人にはすべてのカルマがなくなります。カルマがなくなりますと天国にも行かないし地獄にも行かないです。カルマの結果で天国、地獄に行きますから。

今お話ししたことはヴェーダーンタの結論です。天国の関係で話しましたけれども、そこまで考えないで、ナチケータの願いに戻りましょう。ナチケータは、天国が無限の楽しみの場所であると考えており興味がありました。それでヤマに、「どのようにしたら天国に行くことができるか、それを私に教えてください」と２番目の願いをしました。

以上